

ラジオNIKKEI ■放送 毎週木曜日 21:00~21:15

# マルホ皮膚科セミナー

2018年6月14日放送

「第68回日本皮膚科学会中部支部学術大会 ①

会長講演より」

滋賀医科大学 皮膚科  
教授 田中 俊宏

## はじめに

今日は、第68回日本皮膚科学会中部支部学術大会の会長講演を紹介します。私は、滋賀医科大学医学部皮膚科学教室の田中です。

さて、この学会は2017年10月7日と8日の2日間にわたって、国立京都国際会館で行われました。滋賀医大が主催する学会を滋賀で行わずに京都で行ったことに、不思議な感じをお持ちの先生方もおられるかもしれません。ご当地学会にしないで大きな会場を選択したのは、2つの理由があります。一つは入場者が1,500人を超えるような学会では運営のノウハウがある会場をお借りすることがスムーズな運営に役立つであろうと考えたこと、もう一つは前例があり、福井大学の熊切教授が京都で、和歌山医大の古川教授が大阪で学会を行っていたので、その前例に習いました。実際には、過去最高の1,800人以上の先生方に来て頂きまして、大きな会場を借りてよかったですと思いました。



## 会長講演

さて、その京都国際会館で行われた会ですが、前日の金曜日の夕方までシトシトと降っていた雨も止んで穏やかな秋の学会を開くことができました。1日目は恒例の会長講演をいたしましたので、その内容をかいつまんでお話しいたします。

第一は主催をさせていただきました滋賀医大の歴史の紹介です。滋賀医大の歴史からみると、私は3代目の教授です。初代が渡邊先生、2代目が上原先生です。中部学会側から見ますと、渡邊先生が第36回中部支部学会を1985年10月12日と13日に主催しています。また、上原先生が第47回中部支部学会を1996年11月2日と3日に主催しています。ですから今回の学会主催は、滋賀医大が担当する3回目の学会になります。

滋賀医大の沿革も簡単に紹介し、それらは、What's Newというコーナーで生かされていますので、後ほど紹介します。

## 特別講演

さて、第68回の構成は、テーマを「社会と歩む皮膚科学」としました。

学術そのものの進歩、皮膚科学の進歩、最近の進歩に加えて、社会の変化に応じて変化する皮膚科を取り上げました。皮膚科を取り巻く医学環境は大きく変化をしようとしています。それは専門医制度の変化や、医師の不足による看護師の活用の変化など多岐に渡ります。それらを概括しようと試みました。

学術そのものの進歩については、次のように考えました。一つは外国からの講師をよめました。私はこう考えました。特別講演をするからには、やはり最先端の知識や新しい技術の話になることが期待されるだろう。しかし、そのような最先端の知識を外国語で聞くのは負担が大きくないか？それよりは、同じように高度な話であっても日本語で聞けたら理解が深まるのではないかと考えたのです。これに続く発想は、それでは特別講演は将来ノーベル賞を取ってもおかしくないような分野から、お話をお願いしよう

第36回 1985.10.12-13 渡邊 昌平 滋賀医科大学		第47回 1996.11.2-3 上原 正巳 滋賀医科大学	
第1回 1955.11.3	加納 一郎 名古屋大学	第1回 1955.10.12-13	福代 良一 金沢大学
第2回 1956.11.11	山田 八束 京都府立医科大学	第2回 1956.10.12-13	藤波 博二 大阪大学
第3回 1957.10.31-11.1	山村 忠雄 大阪大学	第3回 1957.10.12-13	大橋 重夫 京都大学
第4回 1958.11.5-6	川村 太郎 金沢大学	第4回 1958.10.12-13	三島 豊 和歌山県立医科大学
第5回 1959.10.21-22	加納 一郎 名古屋大学	第5回 1959.10.12-13	坂本 邦雄 奈良県立医科大学
第6回 1960.10.15-18	山手 俊平 京都大学	第6回 1960.10.12-13	水野 信行 名古屋市立大学
第7回 1961.11.25-12.1	春原 孝之助 大阪府立医科大学	第7回 1961.10.12-13	外松 亮太郎 京都府立医科大学
第8回 1962.10.31-11.1	岩下 健三 京都府立医科大学	第8回 1962.10.12-13	藤田 康夫 関西医科大学
第9回 1963.11.27-28	西村 邦彦 和歌山県立医科大学	第9回 1963.10.12-13	小林 睦夫 名古屋大学
第10回 1964.10.29-30	栗原 善夫 大阪医科大学	第10回 1964.10.12-13	関口 次生 三重大学
第11回 1965.10.28-29	伊藤 賢祐 岐阜医科大学	第11回 1965.10.12-13	藤井 幸雄 金沢大学
第12回 1966.11.2-3	石川 昌義 奈良県立医科大学	第12回 1966.10.12-13	森田 桂 大阪医科大学
第13回 1967.10.25-26	佐野 榮春 神戸医科大学	第13回 1967.10.12-13	森 俊二 岐阜大学
第14回 1968.10.10-11	関口 次生 三重大学	第14回 1968.10.12-13	相模 武一郎 兵庫県医科大学
第15回 1969.9.18-19	伊賀 徳次 名古屋市立大学	第15回 1969.10.12-13	手塚 正 近畿大学
第16回 1970.9.23-24	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第16回 1970.10.12-13	上田 宏 藤田学園保健衛生大学
第17回 1971.9.27-28	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第17回 1971.10.12-13	
第18回 1972.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第18回 1972.10.12-13	
第19回 1973.11.5-6	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第19回 1973.10.12-13	
第20回 1974.10.21-22	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第20回 1974.10.12-13	
第21回 1975.10.15-18	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第21回 1975.10.12-13	
第22回 1976.11.25-12.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第22回 1976.10.12-13	
第23回 1977.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第23回 1977.10.12-13	
第24回 1978.11.5-6	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第24回 1978.10.12-13	
第25回 1979.10.21-22	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第25回 1979.10.12-13	
第26回 1980.10.15-18	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第26回 1980.10.12-13	
第27回 1981.11.25-12.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第27回 1981.10.12-13	
第28回 1982.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第28回 1982.10.12-13	
第29回 1983.11.27-28	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第29回 1983.10.12-13	
第30回 1984.10.29-30	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第30回 1984.10.12-13	
第31回 1985.10.28-29	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第31回 1985.10.12-13	
第32回 1986.11.2-3	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第32回 1986.10.12-13	
第33回 1987.10.25-26	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第33回 1987.10.12-13	
第34回 1988.10.10-11	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第34回 1988.10.12-13	
第35回 1989.9.18-19	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第35回 1989.10.12-13	
第36回 1990.9.23-24	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第36回 1990.10.12-13	
第37回 1991.9.27-28	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第37回 1991.10.12-13	
第38回 1992.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第38回 1992.10.12-13	
第39回 1993.11.5-6	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第39回 1993.10.12-13	
第40回 1994.10.21-22	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第40回 1994.10.12-13	
第41回 1995.10.15-18	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第41回 1995.10.12-13	
第42回 1996.11.25-12.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第42回 1996.10.12-13	
第43回 1997.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第43回 1997.10.12-13	
第44回 1998.11.5-6	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第44回 1998.10.12-13	
第45回 1999.10.21-22	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第45回 1999.10.12-13	
第46回 2000.10.15-18	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第46回 2000.10.12-13	
第47回 2001.11.25-12.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第47回 2001.10.12-13	
第48回 2002.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第48回 2002.10.12-13	
第49回 2003.11.5-6	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第49回 2003.10.12-13	
第50回 2004.10.21-22	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第50回 2004.10.12-13	
第51回 2005.10.15-18	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第51回 2005.10.12-13	
第52回 2006.11.25-12.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第52回 2006.10.12-13	
第53回 2007.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第53回 2007.10.12-13	
第54回 2008.11.5-6	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第54回 2008.10.12-13	
第55回 2009.10.21-22	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第55回 2009.10.12-13	
第56回 2010.10.15-18	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第56回 2010.10.12-13	
第57回 2011.11.25-12.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第57回 2011.10.12-13	
第58回 2012.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第58回 2012.10.12-13	
第59回 2013.11.5-6	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第59回 2013.10.12-13	
第60回 2014.10.21-22	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第60回 2014.10.12-13	
第61回 2015.10.15-18	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第61回 2015.10.12-13	
第62回 2016.11.25-12.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第62回 2016.10.12-13	
第63回 2017.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第63回 2017.10.12-13	
第64回 2018.11.5-6	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第64回 2018.10.12-13	
第65回 2019.10.21-22	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第65回 2019.10.12-13	
第66回 2020.10.15-18	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第66回 2020.10.12-13	
第67回 2021.11.25-12.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第67回 2021.10.12-13	
第68回 2022.10.31-11.1	渡邊 昌平 滋賀医科大学	第68回 2022.10.12-13	

### 滋賀医科大学 皮膚科学講座の沿革

2004年（平成16年）田中俊宏が第3代教授に就任。

- ・独立法人化と新研修医制度が始まる年に着任。
- ・独法化に応じた診療体制の構築を求められる。
- ・水疱症研究、皮膚悪性腫瘍研究、融合遺伝子を用いた診断、稀な皮膚抗酸菌症の診断など多様な研究を遺伝子工学をキーワードにして行なっている。



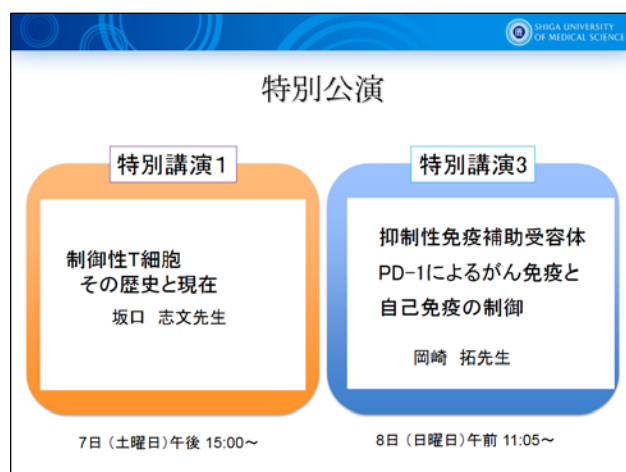
2007年（平成19年）附属病院 D棟竣工

と考えました。このお話を基礎のところから聞いておけば、後になって、あ、あの時の話か、と思ってもらえるのではないかと考えたからです。ですので、歴史から、発見の経緯からじっくりとお話をさせていただくように講師の先生にお願いしました。どんなテーマかと言いますと、特別講演は2つ用意して一つはTreg もう一つはPD-1です。Tregの歴史は長く、講演してくださった坂口先生は、私が基礎医学棟の4階で大学院生をしていた頃、坂口先生は5階で大学院生をされておられました。その頃から胸腺を摘出すると自己免疫性疾患が誘導されることを現象として見出しておられて、その機序を絶え間なく研究されて来られた研究者です。この発見の経緯から、どの分画のリンパ球が抑制性の機能を持つかの解析、さらには、その機能を持つリンパ球の同定と命名、すなわちTregの誕生をお話いただきました。もちろん後半は、最近の話題をちりばめていただいております。

もう一つのPD-1の発見は、私たちのいた棟のお向かいさん、すなわち医化学の研究棟にあった本庶佑先生が率いる「本庶研」での発見です。実際には、このPD-1は、私が留学から帰ってきた1990年の後の1992年に同定され、その後、PD-1欠損マウスが作成され自己免疫との関係が進展して行った分野です。私たちは、急激で急速な学問の進歩をあれよあれよと思いながら見ていくことになった分野です。この発見の経緯から、腫瘍免疫へのスイッチ、そして現在のトピックスへとお話をいただきました。基礎的な歴史を追ってのお話をお願いしたので、理解しやすかったのではないかと思います。

### 「社会と歩む」シンポジウム

学会は特別公演だけで成り立っているわけではなく、もう一つのテーマである「社会と歩む」をシンポジウム形式で取り上げました。医療環境の変化に応じて皮膚科もまたどのように対応するかを考えるヒントになるといいと考えた企画です。一つは、新しい専門医制度などへの対応です。新しい専門医制度では、全ての基盤的な学会に共通して、医療安全と感染制御と職業倫理の学習を義務づけております。すなわち、この3つの分野は、どの専門医になるにせよ必修の学習領域であることとなります。皮膚科の分野では必ずしも馴染みのあるものではないため、皮膚科医が現在は医療安全の教授をしている先生に講演をしていただくことで理解を深めようと考えました。京都大学の松村先生に「リスク管理と挑戦医療のバランス」をお話いただきました。また、医師不足に対応するために、看護師特定行為研修が始まっています。皮膚科の分野でも特定行為がありますので、いずれ近い将来には皮膚科の医師が指示書にサインする日も近いこと



SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

特別公演

特別講演1

制御性T細胞  
その歴史と現在  
坂口 志文先生

7日（土曜日）午後 15:00～

特別講演3

抑制性免疫補助受容体  
PD-1によるがん免疫と  
自己免疫の制御  
岡崎 拓先生

8日（日曜日）午前 11:05～



でしょう。この分野の解説を滋賀医大の北川先生にお願いしました。この話と切っても切れないのが、地域での医療です。「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために」というテーマで、総合医療を実践している花戸先生に講演をお願いしました。これ以外にも複数のテーマがあって、社会と歩む皮膚科学を聞いていただくと近未来の皮膚科医が想像できるようにしました。

最後に滋賀医大の宣伝もしちゃおうと考えました。そこで各大学の若手の新しい発見について話をさせていただくコーナーを作り、そこにちゃんと滋賀医大の話を入れさせていただきました。詳しくは、同じラジオ番組で滋賀医大の高橋先生がお話しすると思いますので、私はここでざっとだけ紹介します。

2つあって一つはシガエンス、もう一つはブルリです。主にブルリの話をしました。ブルリ潰瘍は抗酸菌症の一種で

毒素を出して組織融解を進めながら、病変が進展しうるために、抗生物質が届きにくく、それゆえ外科的な切除が必要となる疾患です。しかし、私たちが調べたところ、切除線の決定法が確立されていませんでした。そこで、ページェット病の時に用いる mapping biopsy の考え方を応用して、組織学的検索と細菌学的な検索をともに行い、必要最小限の切除線を決定する方法を提唱しました。これにより、少ないダメージで治療ができ、また、再手術にならずに済むのはどこを切ればいいのかの目安ができたことになります。もう一つはシガエンスです。知らない方も多いと思います。滋賀県で見つけたのでシガエンスと名付けました。やはり抗酸菌症です。世界で追加報告が出て、今3例の報告がありますので我々が見ているのは夢幻ではなさそうと思っています。

このように、あれやこれやを考えて主催した学会でした。教室が一丸となって主催できたのが一番の収穫だったと思っています。

